

第 23 回（通算 141 回） 全経簿記検定試験 上級出題予想

商業簿記・会計学

科 目		第 1 予 想	第 2 予 想	第 3 予 想
商業簿記		貸借対照表	損益計算書	連結会計
会 計 学	第 1 問	(1)正誤問題	(1)正誤問題	(1)正誤問題
	第 2 問	(2)売価還元法	(2)キャッシュ・フロー 計算書	(2) 売価還元法
	第 3 問	(3)金融商品	(3)退職給付会計	(3) 繰延資産と引当金

なぜこう予想したのか

商業簿記

商業簿記、会計学に共通して言えることですが、改正論点である「資本の部の表示」を確実に押さえて試験にのぞみましょう。というのも、前回の会計学第2問で、資本の部及び損益計算書の末尾に関する表示区分の出題がされたからです。今回は、商業簿記の総合問題の形式で問われる可能性が高くなっていますので、商業簿記の第1予想は貸借対照表作成問題としました。

第2予想は損益計算書作成で、P / L 末尾を特に注意しましょう。

最後に第3予想としては、ハズせない連結会計としました。前回、連結精算表が出題されていますが、相変わらず重要なテーマです。

具体的な論点としては、新株予約権付社債は押さえておくべきです。また、税効果会計も近年、連続して出題されていることから、今回も要注意です。

会計学

会計学は、理論では企業会計原則、連結財務諸表原則及び金融商品に係る会計基準等の新基準には、目を通しましょう。ただ、目を通すだけでなく、計算をイメージしながら見ると理解も早いでしょう。また、新基準は小問で出題されることも考えられます。

第1予想は配当可能限度額の計算、金融商品が予想されます。配当可能限度額の計算は資本の部の表示が変更になり迷うかもしれませんが、計算は従来通りにできますので表示に惑わされることのないようにしてください。有価証券の時価評価は計算と理論の両方で可能性があります。

第2予想はキャッシュ・フロー計算書、退職給付会計です。どちらも理論、計算の両面から出題される可能性があります。

第3予想は売価還元法と繰延資産と引当金です。意義、要件を確認し、比較をしましょう。

このネットスクール予想は、個人でのご利用に限り提供をしています。

団体等でのご利用、無断転用は固くお断りいたします。

Copyright (C) 2003 Net School Corp. All Rights Reserved.

第 23 回(第 141 回) 全経簿記検定試験

上級出題予想

工業簿記・原価計算

科 目	第 1 予 想	第 2 予 想	第 3 予 想
工業簿記	個別原価計算	工程別総合原価計算	直接原価計算
原価計算	C V P 分析	差額原価収益分析	標準原価計算

なぜこう予想したのか

工業簿記・原価計算

【第 1 予想】

工業簿記は個別原価計算、原価計算は CVP 分析としました。

個別原価計算はコンスタントに出題されており、近年の実績から 3 年もしくは 4 年に 1 度は必ず出題されているという傾向を踏まえて、第 1 予想としました。また、CVP 分析は全経上級では頻出の論点で、大問としてだけでなく小問の形式でも出題されていますが、第 19 回以降出題がないので第 1 予想としました

【第 2 予想】

工業簿記は工程別総合原価計算、原価計算は差額原価収益分析としました。

工程別総合原価計算は、個別原価計算と同じくらいの頻度で出題されており、複合問題の出題が想定されますが、個別原価計算よりは多少重要性が下がると判断し、第 2 予想としました。

差額原価収益分析は第 4 回以降出題がないという点や前回、前々回が企業評価、設備投資に関する出題であったことから、第 2 予想としました。

【第 3 予想】

工業簿記は直接原価計算、原価計算は標準原価計算としました。

直接原価計算は、第 7 回以降出題はありませんが、重要な論点であるため、第 3 予想としました。

標準原価計算は、前回工業簿記で出題されましたが、原価計算でも出題の実績があるので、注意が必要と判断して第 3 予想としました。